

大学

関東地区大学史連絡協議会会報

アーカイヴズ

1992. 9. 28 No.7

Association of College and University  
Archives of Kanto Region

1992年3月19日(木)研究部会(講演会)

## 「保存」から見た紙資料の

## 展示の考え方と技術

有限会社キャット 木部 徹

## 1. 紙資料の劣化の原因

展示の場合に限らず、紙をベースにした資料が劣化していくのには原因がある。その資料をオリジナルのままに残し、末長く利用に供したい(展示もこれに含まれる)ならば、これらの劣化原因を絶ち、資料を保護してやればよい。

劣化の原因には資料の外からのものと、資料の内からのものとが考えられる。前者は書架や展示ケースの物理的な状態、光、湿気、熱、大気汚染物質、虫、カビ、火災、水害等があげられる。利用や出納の時の不適切な取り扱い、無理な保管や展示の形態、高い利用頻度(長期展示も含む)、貸し借りのための乱暴な輸送等も含まれよう。後者は、資料に内在した酸やリグニン、製本の構造等がある。こうした劣化の原因となることから、いくつか複合され、資料を襲う。

## 2. 劣化の原因を絶つ—展示の場合

紙資料にとって展示とは、いつもとは全く違った、異常な状態に置かれることだ、という認識を最初にもっていただきたい。以下に、展示の際に考えられる劣化の原因をあげ、それをどのように絶ち、資料を保護するかを列記した。

①長期に同じものを展示しつづけるのはよくない。一般的に、3カ月以上は避けるようにしたい。もし3カ月以上におよぶ展示をしなければならない場合には、通常以上に展示環境と、それによる資料の経時的な変化を厳密にモニターする必要がある。顔料や染料などの色材を使ったものはとりわけ光による化学反応によって色あせが起きることを覚悟する。こうしたものを展示しなければならない時には、資料の表面の照度が50ルクスを超えないようにしたい。

②光はエネルギーだから、たとえ可視光線であっても資料を劣化させる。ただし、光を当てなければモノは見えないのだから、展示物への照明は避けられない。妥協点としては最高でも100ルクスぐらい、というのが目安になろう。この照度は最初は「暗い」という印象を受けるだろう。しかし、目はしだいに慣れてくる。展示ケースだけをこの程度の明るさにして、その周囲は暗くすることも考えたい。現在行われている展示の照明は明るすぎるとしてよい。

③光の中でも紫外線は特に危険だ。強い紫外線を含む太陽光を展示物に当てることは論外だが、普通の蛍光灯からも微弱な紫外線が出ている。これは紫外線を発しない蛍光灯に替えることで解決できる。ただし、前述した



成蹊学園史料館

ように、可視光線でもモノは劣化するし、50ルクスでもこれを100時間照らせば、1000ルクスの光に5時間さらしたのと同じことになることも覚えておきたい。

④展示ケースの中の温度と湿度を厳密にコントロールするのは難しいが、それぞれ、18～22度C、50～60%ぐらいを目安に安定するようにしたい。湿度調整については、加工しやすく展示ケース内に簡単に組み込める調湿紙が製品化されている（注1）のでこれを利用するのもよい。

⑤以上の環境制御は常にモニターする。ケース内に設置できる小型の温度計や湿度計も市販されている。また、温度や湿度を色の変化で表示するカード型の製品がある（注2）。

⑥一枚ものを展示する時に、展示台が木製や塗料が塗られていて、そこからの物質の移行による影響が不安な時は、中性紙の紙を一枚敷いて遮蔽し、その上に資料を載せる。本を展示するときも同じようにする。

⑦一枚ものは平たい状態で展示できるが、本は立体物で、さらにメカニカルな動き（例えば表紙の開閉）を伴う構造物であるから、それを考慮した展示をする。本の扉や中を見せるときには本を開かねばならないが、開いた表紙の下に支えを置いてやれば、本のヒンジ部が傷まず、展示が終っていき本を閉じようとするとキチンと閉じられない等ということが起こらない。

⑧本はなるべく寝かせるか、小さな角度で斜めにおく。もし大きな本で重たいものを立てて展示しなければならない場合には、本のチリ（ハードカバーの本は表紙のサイズが中身よりも少し大きめに作ってある。チリとはこの差の幅をいう）の分だけの支えを下に敷

いてやる。これで本のノドが傷まない。

⑨理想的には、一日の展示の間だけ本を開き、その日の展示が終了したら本を閉じておく。次の日には別のところを開くのがよい。なめし革やベラムを使った洋古書には特に勧めたい。巻物なども同じ。

⑩見開いて平たい状態にならない本は、無理に開くと背が壊れる。無理なく開けるところで固定することを考える。本の開きに対応できるV字型の支えを中性紙の厚紙でつくって載せる。本が閉じてしまうようならば、見開いた両側を、短冊型の透明のポリプロピレンフィルムかポリエチレンフィルムで巻いて固定する。

⑪他から借りたものを、安定した環境の中で展示するのは当然として、貸す場合にも相手側に、安定した環境を形成できるのかを確認する。輸送にも気をつけたい。

⑫展示をする前に、モノがどういう状態かをチェックするだろうが、そのままの状態では物理的・化学的に不安があるという資料は、コンサベーションの3原則を踏まえて、脱酸や強化、マウントやフレーミング、製本等の保存修復処置ができる専門家に手当てを依頼する。3原則とは、処置法が可逆的であること（いつでも元の状態に復せる）、非破壊的であること（処置がモノとして保持してきた情報を改変したり廃棄したりしない）、記録化（どのような処置をしたかの記録を明らかにする）である。

以上、貴重な紙資料を展示する場合に注意してもらいたいことをあげた。その大半が、突飛なことでもないし、特別な技術を必要とするものでもない。普通の良識と、少しの保存知識があれば、誰でも実践できると思う（予算や人の問題は除く）。

### 3. さらに詳しく知るには（文献紹介）

・劣化の原因については――

『博物館の環境管理』ギャリー・トムソン著（東京芸術大学美術学部保存科学教室訳）雄山閣出版（1988）

・展示の効果的なディスプレイ等を含めた一般的な問題を知るには――

『展示デザインの原理』R.S.マイルズ著（中



講演する木部徹氏

山邦紀訳) 丹青社 (1986)

・紙資料の保存的な展示の考え方と、物理的な支えのマニュアルは-----

「本を展示する(1)~(5)」(『CAP:本の保存のための海外ニュース月報』Vol.2, No.1~8, 1987~88)

・貸し借りの際の注意事項や規約については-----

「展示のための貸借に関する勧告----- I F L A のワーキング・グループ」(同上 Vol.2, No.5, 1987)

・紙資料の展示の模範としては-----

「資料保存を考えた展示とは? ボドリアン図書館重宝展」, 「ブラックスランド氏との対話」(日図協資料保存委員会発行『ネットワーク資料保存』第28号, 1990年12月)

\* 海外文献については研究部会の当日にお配りした資料を参照していただきたい。

(注1) HCペーパー。問い合わせはTS スピロン (千代田区内神田2-5-19 電話03-3256-7666) へ。

(注2) 温・湿度インジケータ・カード。問い合わせは有限会社サザーランド・カンパニー (品川区南品川5-16-17-205 電話03-3472-4141) へ。

## 関東地区大学史連絡協議会会員名簿

(1992年9月1日現在)

### (会員校・担当部署)

神奈川大学・大学資料編纂室

〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

(☎045-481-5661)

慶應義塾・福澤研究センター

〒108 港区三田2-15-45

(☎03-3453-4511)

國學院大学・校史資料室

〒150 渋谷区東4-10-28

(☎03-5485-0102)

国際基督教大学・広報課

〒181 三鷹市大沢3-10-2

(☎0422-33-3057)

國士館大学・総務部広報課

〒154 世田谷区世田谷4-28-1

(☎03-5481-3118)

(國士館資料室)

〒154 世田谷区若林4-31-10 柴田会館

(☎03-5481-5340)

実践女子学園・企画部広報課

〒191 日野市大坂上4-1-1

(☎0425-85-0303)

上智大学・史料室

〒102 千代田区紀尾井町7-1

(☎03-3238-3294)

成蹊大学・学園史料室

〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

(☎0422-37-3517)

専修大学・年史資料室年史資料課

〒101 千代田区神田神保町3-8

(☎03-3265-6211)

拓殖大学・総務部広報課

〒112 文京区小日向3-4-14

(☎03-3947-2261)

玉川大学・図書館学園史料室

〒194 町田市玉川学園6-1-1

(☎0427-28-3203)

大乘淑徳学園・淑徳百年史編集事務局

〒174 板橋区前野町6-32-1

(☎03-5392-8822)

中央大学・広報部大学史編纂課

〒192-03 八王子市東中野742-1

(☎0426-74-2132)

津田塾大学・学長事務室  
〒187 小平市津田町 2-1-1  
(☎0423-42-5113)

東海大学・資料室  
〒151 渋谷区富ヶ谷 2-28-4  
(☎03-3467-2211)

東京基督教大学・歴史資料保存委員会  
〒270-13 印旛郡印西町内野 3-301-5-1  
(☎0476-46-1131)

東京経済大学・企画広報課  
〒185 国分寺市南町 1-7  
(☎0423-21-1941)

東京女子医科大学・史料室、吉岡弥生記念室  
〒162 新宿区河田町 8-1  
(☎03-3353-8111)

東京農業大学・図書館  
〒156 世田谷区桜ヶ丘 1-1-1  
(☎03-3420-2131)

東北学院・広報室  
〒980 仙台市青葉区土樋 1丁目 3-1  
(☎022-264-6423)

東洋大学・井上円了記念学術センター  
〒112 文京区白山 5-28-20  
(☎03-3945-7555)

獨協学園・百年史編纂室  
〒340 草加市学園町 1-1  
(☎0489-42-1111)

日本工業大学・資料室  
〒345 南埼玉郡宮代町学園台 4-1-1  
(☎0480-34-4111)

日本女子大学・成瀬記念館  
〒112 文京区目白台 2-8-1  
(☎03-3942-6187)

日本大学・大学史編纂室  
〒102 千代田区九段南 4-8-24  
(☎03-5275-8136)

法政大学・多摩図書館資料課  
〒194-02 町田市相原町 4342  
(☎0427-83-2281)

武蔵学園・企画室  
〒176 練馬区豊玉上 1-26-1  
(☎03-3991-1191)

武蔵野美術大学・大学史史料室  
〒187 小平市小川町 1-736  
(☎0423-42-6091)

明治大学・歴史編纂事務室  
〒101 千代田区神田駿河台 1-1  
(☎03-3296-4085~6)

立教大学・図書館大学史資料室  
〒171 豊島区西池袋 3  
(☎03-3985-2693)

立正大学学園・企画広報室  
〒141 品川区大崎 4-2-16  
(☎03-3492-5165)

早稲田大学・大学史編集所  
〒169-50 新宿区西早稲田 1-6-1  
(☎03-3203-4141)

## 早稲田大学大学史編集所と百年史編纂について

4月15日、近代日本において「伝統的大学」としてその存在意義を内外に知らしめ、且つ沿革史編纂にも長い経験を持つ東京は早稲田大学で、上記の表題に関する研究部会が開催された。参加は19校、計34名であった。

今回の研究会は同所が昨年移転した旧図書館に新しく開設された「大隈記念室」と「大隈記念展示室」とを記念して、同所主催による「大隈重信と早稲田大学」の展示期間中に開かれた。まず、ナレーターに森繁久彌氏を起用した「早稲田大学創立百周年記念ビデオ（短縮版）」を観賞した。映像中に、大隈自身の生の声を記録したレコードも流れ、映像を迫力あるものにしていった。次いで、関田かおる氏（同所事務長）から記念展示室の概要が説明され、のち3班に分かれて展示を見学した。解説は関田氏の外、松本康正、菊池紘一両大学史編集所員により行われた。又、大隈記念室もあわせて見学した。大隈着用のアカデミック・ガウンは重厚そのものであった。

見学の後、図書館から大隈庭園内の完之荘に移動して、大学史編集所の歴史や早稲田大学百年史刊行などについて上記の3氏と佐藤能丸編集員から報告がなされた。なお移動の途中にある、近年建立された戦没学生の碑（平和祈念碑）の説明があり、しばしその歩をとめた。完之荘は田舎風の日本家屋で、めずらしく畳に座っての報告であった。

大学史編集所の淵源は1961年1月図書館のなかに置かれた校史資料係であり、その後いくたびかの組織変更を経て、1979年6月に「本大学の歴史および大隈重信の事蹟を明らかにし、これを将来に伝承すること」を目的に設立された。このように同所は30余年の歴史を持つ機関であり、日本では希有の例に属するものであろう（参考資料）。同所は1982年に迎えた創立百周年のため、記念事業の一つ



早稲田大学大隈記念展示室で

である『早稲田大学百年史』全7巻の刊行を進めており、現在までに稿本第1巻から第4巻上まで刊行、定本は第1、第2、第3巻と学部や付属機関の歴史を収録した別巻1、2が刊行されている。一方大隈の事跡研究とその普及に関しては『大隈重信叢書』全5巻を始め『小野梓全集』全5巻等の編集・刊行も行っている。そのほか大学の歴史や大隈重信および稲門の人びとに関する学内外の展覧会には全面的に協力するとともに、研究者の調査や報道機関、出版社などの取材に対して積極的に対応している、とのことであった。また、学内外の研究者による最近の研究成果が盛り込まれている機関誌『早稲田大学史記要』が年1回発行されており、現在第24号まで数えている。

百年史編さんに関しては、「百年史」の刊行スケジュールなどの配布資料に基づき報告がなされた。このうち、編集体制や執筆者の選定、学内資料の収集と閲覧、百年史編集上の問題点などについて質問がなされた。これに対し4氏から、百年史編集及び刊行事業は編集員を中心に定本、稿本の2本立てで行い、編集上必要と思われる学内資料については取

集とその整理を行っている、とのことであつた。早稲田大学百年史（定本）には詳細な索引と教員の就退任期間一覧が掲載されており、その苦勞は一角ではないことなどの苦心談も披露された。県史編集などでは20年、30年という長期間に及ぶことがままあることだが、学校の年史編集では周年記念の出版物としての規制が強く、編集・刊行はそう長くできない。それに対して同様の編集は稿本第1巻の出版よりすでに20年を経過しており、その完璧を期することと、出来得る限り正確なものにする、という歴史編集の姿勢には学ぶべき点が多々あると思われた。

これらの質疑応答終了後、再び旧図書館に戻り大学史編集所内で収集資料の一部を閲覧し、さらに収蔵庫を見学し、資料の整理や方法などの熱心な説明を受けた。

（参考資料）

### 早稲田大学大学史編集所の歴史（第20回研究部会配布資料）

年月日	事項	所長	事務長	嘱託	備考
1961.	図書館に校史資料係をおく			高野 善一	図書館時代
1963.12. 5.	教務部に校史資料室設置			中西敬二郎 (1983.3.31)	教務部所管時代
1964.10. 8.	総長室に関する規定				
1965. 2. 1.	総長室校史資料係			岡田 俊平 (1979.3.3.) 木村 毅 (1979.9.18) 高垣寅次郎 (1985.8.26)	総長室時代
2.11.	早稲田大学史編集研究委員会				
1969. 6. 1.	大学史編集所と改称		坂井 秀春		
1970. 1.	所長嘱任	小松 芳喬		佐藤 能丸 松本 康正	小松時代
4.15.	早稲田大学大学史編集所規程				
1974. 4. 1. 1975. 9. 1.					
1976. 4. 1.	総長が所長事務取扱いとなる	村井 資長		河野 昭昌 (1987.3.31) 小松 芳喬 (1992.3.31)	総長時代
1978.11.16. 1982. 4. 1. 1982.11. 5. 1984.11.16.		清水 司	北川 幹造		
		西原 春夫 西原 春夫			
1986.11.16. 1987. 4. 1. 1989. 6. 1.	常任理事が所長兼任となる	柏崎利之輔		菊池 紘一	常任理事時代
			関田かおる		
1990.11.16.	専任の所長復活	正田健一郎			正田時代

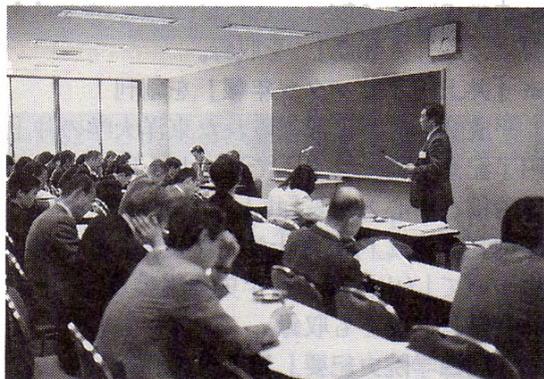


第20回研究部会（早稲田大学・完之荘）

（本研究部会の報告は、当日配布された資料および協議会の研究部会記録などを参考にして本会報編集担当者がまとめたものです）

関東地区大学史連絡協議会  
1992年度総会議事録(抄)

日時 1992年5月7日(木) 14時~15時  
場所 中央大学駿河台記念館510号室  
出席校 24大学(40名)



1992年度総会(中央大学駿河台記念館)

開会の挨拶 中央大学(会長校) 浜松 晃氏  
議長 日本大学 近沢昭一氏  
副議長 國學院大学 益井邦夫氏

議事 1. 1991年度事業報告・同決算報告  
について(承認)  
2. 1992年度事業計画案・同予算案  
について(承認)  
3. 役員 選出について(承認)

※参考 1992年度役員校

会長校 中央大学  
副会長校 神奈川大学 東海大学  
常任委員校 玉川大学 日本大学  
立教大学  
会計委員校 成蹊大学 専修大学  
監査委員校 日本工業大学  
明治大学

4. その他

閉会の挨拶 中央大学(会長校) 北村 孝氏  
懇親会 15時~16時30分

常任委員会議事録(抄)

第26回 1992年3月19日(木) 14時~15時  
場所 成蹊学園学園史料館 第1会議室  
出席校 神奈川大学 成蹊大学 専修大学  
玉川大学 中央大学 東海大学  
日本大学 日本工業大学 明治大学  
議事 (1)来年度の事業計画について  
(2)会報第6号の編集について

(3)その他(片岡弘勝氏<名古屋大学  
史編集室>の協議会入会を1992年4  
月1日付で承認する)

第27回 1992年4月15日(水) 14時~15時  
場所 早稲田大学大隈会館食堂  
出席校 神奈川大学 成蹊大学 専修大学  
玉川大学 中央大学 東海大学  
日本大学 日本工業大学 明治大学  
議事 (1)1992年度の総会について  
(2)合同研究部会開催の件について  
(3)その他(東京基督教大学の協議会  
入会を1992年4月1日付で承認す  
る)

第28回 1992年5月7日(木) 13時~14時  
場所 中央大学駿河台記念館510号室  
出席校 神奈川大学 成蹊大学 専修大学  
玉川大学 中央大学 東海大学  
日本大学 日本工業大学 明治大学

議事 (1)1992年度の総会について  
(2)その他(上智大学史料室の協議会  
入会を1992年4月1日付で、寺崎弘  
康氏<神奈川県立博物館>の協議会  
入会を1992年4月20日付で承認す  
る)

第29回 1992年7月17日(金) 15時~17時  
場所 東海大学校友会館  
出席校 神奈川大学 成蹊大学 専修大学  
玉川大学 中央大学 東海大学  
日本大学 日本工業大学 明治大学  
立教大学

議事 (1)合同研究部会実施について  
(2)会報『大学アーカイヴズ』第7号  
編集について  
(3)その他

研究部会記録(抄)

第19回 1992年3月19日(木) 16時~17時  
会場 成蹊学園学園史料館第1会議室  
参加校 18大学 2個人会員 計25名  
挨拶 横山博 成蹊学園史料室長  
講演会 講師 木部 徹氏  
(有限会社キャット)  
演題 「『保存』から見た紙資料の展示  
の考え方と技術」  
※講演内容につきましては、本号に

掲載した木部氏の論稿をご参照下さい。

第20回 1992年4月15日(水) 15時～19時  
会場 早稲田大学大学史編集所  
参加校 19大学2個人会員 計34名  
概要 研究部会の内容につきましては、本号に掲載した「早稲田大学大学史編集所と百年史編纂について」をご参照下さい。

## 三二情報

※『図録 東海大学50年』と「東海大学50年史編纂室の窓から」縮刷版の刊行について  
東海大学では、1992年11月1日に学園創立50周年を迎えることから『図録 東海大学50年』を刊行します。これまでの学園の歴史を簡明な説明と写真で鳥瞰できるよう配慮しました。

また、『東海大学新聞』紙上に掲載した前年度分「東海大学50年史編纂室の窓から」の縮刷版ができあがりました。ご希望の方は、代々木校舎50年史編纂室(03-3467-2211 内線430) 日露野までご一報ください。

(東海大学50年史編纂室)

※『中央大学百年史編集ニュース』第18号  
1992年6月刊行

『明治紳士譚』より英吉利法律学校創立者に関する記載部分を抄録、あわせて'91年11月から'92年3月までの収集資料を紹介。

(中央大学広報部大学史編纂課)

※『関西大学百年史』通史編、下巻の発刊  
関西大学では、昭和61年に「通史編 上」及び「人物編」、「百年のあゆみ(写真集)」を刊行していたが、今春、昭和31年から同61年

までの30年間の歴史を記録した下巻(A5判約1300ページ)を刊行した。

なお、同大学では引き続き「年表・索引編」、「資料編」の編纂を進めている。

※『法政大学史資料集』第15集刊行

明治13年から同21年までの東京法学社・東京法学校時代の役員、教員についての文献資料による「人物誌」を収録。

※『井上円了センター年報』を創刊

平成2年4月に設立された東洋大学の井上円了記念学術センターでは、井上円了研究の諸論稿を中心とする『井上円了センター年報』を創刊。他に『東洋大学百年史』編纂の現状について(山内瑛一百年史編集委員)、「センター日誌」なども収録。

※『関西学院史紀要』第2号の刊行

関西学院百年史の正史編纂にむけて昨年6月に創刊された『関西学院史紀要』の第2号が、このたび刊行された。百年史に関わる諸論文、座談会、資料を収録。

(以上4点の紹介は本会報編集担当者)

## ご案内

本協議会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記事務局へご連絡ください。会則、会報No.1～No.6などをお送りいたします。

なお、10月1日の合同研究部会に続く第22回研究部会は、11月13日に慶應義塾福沢研究センターで開催します。

### 〈事務局〉

中央大学広報部大学史編纂課

〒192-03 東京都八王子市東中野742

☎0426-74-2132

### 編集後記

本号が発行される頃、京都、大阪で「西日本大学史担当者会」の方々との合同研究部会が開催されます。次号では、この初めての合同研究部会の特集を予定しています。

なお、本号から会報編集は、神奈川大学、東海大学、立教大学の3校が担当することになりました。担当校へ大学史に関わる情報をお寄せください。(S)

<会報編集担当>

神奈川大学資料編纂室 〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 ☎045-481-5661

東海大学資料室 〒151 渋谷区富ヶ谷2-28-4 ☎03-3467-2211

立教大学大学史資料室 〒171 豊島区西池袋3-34-1 ☎03-3985-2693